

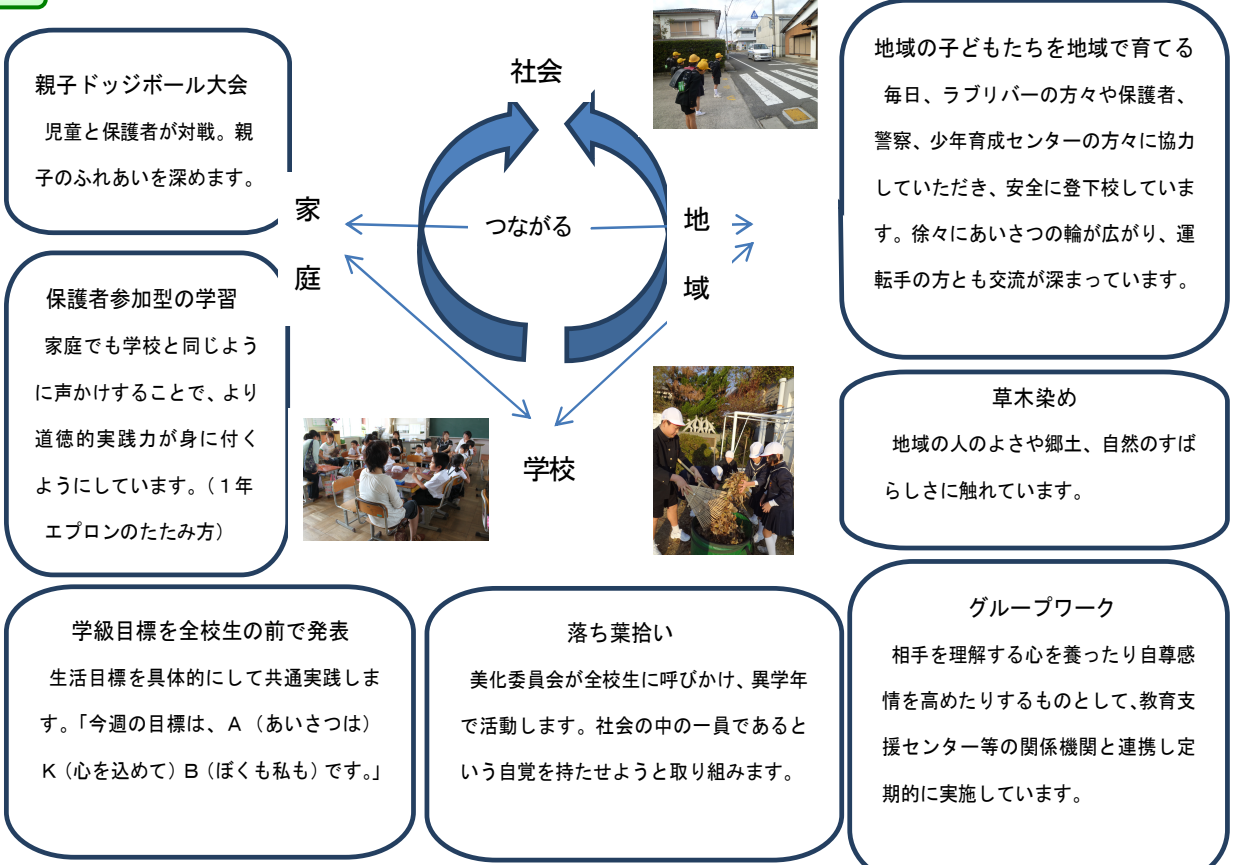
関連項目：指導体制プラン②

きらきらつながるため協働体制で取り組む

目的

本校の児童は、自己有用感があると感じている者が約40%と低いことが課題となっています。そこで、力によるのではなく、子どもの心を受けとめ包み込む生徒指導をチームで行うことにしました。「行動や言葉」の指導と「心」の指導がつながるという観点から、「行動や言葉」の奥にある「心」を思いやり、道徳教育と関連づけた心にひびく生徒指導ができればと考え、学校、家庭、地域、関係機関が連携して取り組みます。

内容



主体的に生活をつくっています。

- み (身だしなみ)
- そ (掃除)
- あ (挨拶)
- じ (時間を守る)

● **学習規律もみんなで見直す**

一貫性のある指導も発達の段階や児童の特性に応じて行えるよう、教職員が話し合う時間や場を持ちます。

学習チェックカード	氏名				
しっかりと学習するための気持ち、持ち物の準備はできていますか？ できているには、○を、できているには、○をつけてください。	11/17(日)	11/18(日)	11/19(日)	11/20(日)	11/21(日)
① 授業のやる気はみんなと比べていますか。					
② 学習に必要なものを(教科書、ノート)準備はできていますか。					
③ ティーム服装はできていますか。					
④ 掃除の準備はできていますか。					
⑤ 下校準備はできていますか。					
⑥ 毎日、学習規律を定めておきましょう。(2分間)					

できている ○ できていない (準備はできていない)

成果

学校生活に落ち着きが見られ、心のこもったあいさつや歌声の響く、掃除の行き届いた美しい学校になってきました。学校という小さな社会から、将来、一般社会にスムーズにつながっていくことのできる子どもを育成するために、家庭や地域が同じ価値観の上に立ち、子どもたちを見守り、導いていけるよう取り組みました。

課題である自己有用感(約40%)のさらなる育成のため、次年度は、異学年活動の充実を図ろうと考えています。